

地域まちづくり協議会

高向ひと・まち・ゆめ新聞



会長：北宅 実
(090-8884-7608)
事務局長：森 光啓
(090-1908-6765)
編集担当：東 映道
(090-8570-6221)

設立に51団体が賛同

来春にはウォーキングを実施

住民が力を合せて地域課題の解決に向けて活動に取り組む地域まちづくり協議会。今、河内長野市内の小学校区で設立が進んでいます。そのような中、平成24年9月2日（日）、JA大阪南高向支店で、市内で4つ目となる「高向小学校区“ひと・まち・ゆめ”づくり会」の設立総会が開催され、多くの地域団体、住民が集まりました。

高向小学校区では、これまで平成21年から約3年にわたり、「まちづくり交流会」において、地域の資源

や課題などについて、自由や福祉団体、青少年団体、ボランティア団体、NPO法人など合計で51の団体・機関・施設等からの賛同を得て設立に至りました。



名称は高向小学校区“ひと・まち・ゆめ”づくり会に決定しました

設立総会では、高向小学校区の歴史ある自然豊かな地域資源を有効に活用し、様々な地域課題の解決に取り組むながら、住民同士のつながりを深め、良好な地域社会の構築を目指していくことが承認されました。今後は、この目的を達成するために、スタッフや協力者を募りながら、様々な活動に取り組む予定です。具体的な活動では、概ね毎月第2木曜日に高向公民館で誰でも自由に地域情報を交換できる「まちづくり交流会」を継続開催します。さらに、来春には、地域に点在する歴史遺産や自然資源を巡るウォーキングイベントなどを実施します。



芝田市長が来賓として参加し、まちづくりの基本は、地域のつながり、絆を深め、地域住民の皆さんと行政が連携を図ることだと語り、協議会の活動に熱いエールを送りました。また、協議会の活動を支援する高向小学校区担当の地域サポーター職員2名も併せて紹介されました。

他にも、様々な団体、住民が連携して防災や防犯意識を高めていけるよう、防災先進地域への視察、河川や歩道の地域清掃、子どもたちの見守り、防犯声かけ運動、花苗の植栽など、各地域の取り組みが校区全体に広がるような環境づくり活動に取り組む予定です。



みんなで一緒に、つながる「まちづくり」をはじめませんか。



高向小学校区で「地域まちづくり協議会」が誕生！

- 地域資源の有効活用**：豊かな自然や歴史資源を活かし、住民の郷土愛を育む
- 住民同士の顔が見える**：住民同士の顔が見え、子どもから高齢者まで楽しく交流できる
- 安全・安心**：安全かつ安心で、すべての住民が快適に暮らせる

高向小学校区“ひと・まち・ゆめ”づくり会は、高向小学校区における歴史ある自然豊かな地域資源を有効に活用し、地域住民・地域団体・行政が協働し、様々な地域課題の解決に取り組むながら、住民同士のつながりを深め、高向小学校区における良好な地域社会の構築を図ることを目的としています。

これまで、自由に地域情報を意見交換する「まちづくり交流会」において、校区内の自治会や地域住民の皆さんの意見を集約しながら、設立に向けて準備をすすめ、平成24年9月2日に設立されました。高向小学校区“ひと・まち・ゆめ”づくり会は、高向小学校区内で活動し、上記の目的に賛同する地域団体、ボランティア団体、事業者、地域住民など、どなたでも参加することができます。詳しくは各自治会へ。

滝畑自治会/日野地区自治会/旭ヶ丘自治会/高向区自治協議会(高向上町会/高向中町会/高向下町会) /新滝畑自治会/高向新下町会/ふたば自治会/ガーデンヒル自治会/ガーデンヒル第2自治会

設立総会では、かわいいイラストのチラシも配付されました。

満場一致で初代役員を選任

今回の総会で初代会長に選任された北宅会長は、多くの団体からの賛同に謝辞を述べ、役員や運営委員と協力して、全力で運営に努めることを宣言しました。また、今後は、各専門部会などで具体的な取り組みを進めるため、会員である住民の皆さんからの積極的な参加を呼びかけました。

なお、役員及び運営委員は左のとおりです。

- 会長 北宅実（高向）
- 副会長 山本忠行（高向）
- 副会長 江後嘉實（滝畑自治会会長）
- 副会長 阪谷俊介（新滝畑自治会会長）
- 副会長 河浦三郎（日野地区自治会区長）
- 副会長 中森昌博（旭ヶ丘自治会会長）
- 副会長 北大宅伊太郎（高向区自治協議会区長）
- 会計 土井弘（高向）
- 事務局長 森光啓（高向）
- 地域発見部会長 三浦正彦（高向）
- 環境整備部会長 川岸祥郎（高向）
- 会計監査 上久保善生（高向）
- 会計監査 福井八重子（旭ヶ丘）
- 運営委員 川見良二（日野）・森宏允（高向）
- 三浦佐江子（高向）・北田くみ子（下高向）
- 伊東説子（旭ヶ丘）・河端佐千子（日野）

市内最高齢は高向に在住

日本人の平均寿命は、国の資料によると男性でおよそ79歳、女性で86歳といわれています。

そのような中、現在、河内長野市に在住する最高齢者は、高向在住の方ということが分かりました。



山中マリエさん 106歳

現在、河内長野市の最高齢の長寿者は、下高向に在住されている山中マリエさん（女性）106歳です。

彼女は、明治39年2月9日生れで、男子4人と女子3人の子ともさんにも恵まれ、現在では、孫ご夫婦と暮らしています。

長寿の秘訣はとお聞きすると、毎日気楽に休養も適度に取り、また食事は、腹7〜8分位と心がけ、野菜を欠かさず、特に「かずのこ」が好物なことが思い当たりますと元気に答えていただけました。

私たちも見習いたいものです。どうかいつまでもお元気で。（山本忠行）

グミに思う地域再発見

初夏に筒状の花が無数に咲き、赤い俵型の甘酸っぱい実をたくさん付けるグミという低木が、我が家の庭にもあり、今2mほどの高さになっていきます。

これは、グミ科グミ族の「トウグミ」で別名を「唐菜黄」と言うそうです。

グミの仲間には、日本では本州の太平洋側と四国に10数種類ほど分布しているところで、図鑑で調べるとナツグミ、ナワシログミ、マルハグミ、ツルグミ、ハコグミ等々があるようです。

庭のグミがどうして「トウグミ」と分かったのか？ それを見分けたのは、葉が楕円形で表面に銀白色の星状毛が全面に生えていること、花は初夏に咲き、花弁がなく淡黄色の筒状花で先が4裂すること。赤い実は、6月に赤熟し、ナツグミよりも大きい俵型。葉の表面はルーペで見ると、見事な星状の毛が無数に見え、まるで宇宙の様です。

私になぜ庭のグミのことを調べたかというところ、今年4月から「シニア自然大学」に入学し、植物や生きものと自然環境の観察を学んで



トウグミ

いるからで、その講座に長期観察「私の草木」という課題があり、観察対象にグミを選びました。

我が家のグミは、改めて意識しなければ、「ただのグミ」のままでした。同じように、目の前の色んな対象も意識しなければ、ただ見えるだけで通り過ぎてしまふ。これから取り組む地域の再発見にも、この視点を忘れずにいたいと感じています。（三浦正彦）

思い切って参加を

今、巷では健康志向でウォーキングが流行しているようです。

健康によいと分かっていても、「始めるきっかけがない」と、二の足を踏んでいる人も多いのではないのでしょうか。

各地の歩こう会や行政が主催しているウォーキングイベントに親子や友だち同士で参加することで、普段会話がなかったのに歩くことで話せる機会が増え、自然と仲間意識が生まれゴールするころには、すっかり打ち解けるなんてことも。

高向小学校区「ひと・まち・ゆめ」づくり会では、来春、高向小学校区を巡る地域発見ウォーキングを企画しています。

また、誰もが気軽に参



加でき、自由に地域の情報を交換する「まちづくり交流会」は、毎月第2木曜の19時に高向公民館で開催しています。

日頃の思いを気楽に話してください。外に出て多くの人に接することで不思議と脳の活性が図られます。

我が家の猫は元気印

我が家の猫は、来月17歳になります。生後3ヶ月で我が家に来て来た雄猫。

いまだに、朝や夕方階段と居間の間を全速力で走り飛びまわっています。

室内で飼っている猫なので、他の猫と喧嘩して怪我をしたり、感染症や交通事故に合う危険性もあまりなく、長生きする可能性が高いものです。（北田くみ子）



農業の楽しみイチジク出荷中

私は、昨年から本格的に農業を始めました。それまでは会社に勤めながら親から受け継いだ田んぼで休日を使って稲作をしており、野菜や果樹に関してはまったくの初心者でした。

会社を定年退職し時間に余裕もでき、果樹栽培を本格的に始めました。知識や経験がないため、近所の方



自慢のイチジク農園



に教えてもらい取り組み、今年、立派な無花果（イチジク）が収穫できました。

今では、早朝からの収穫作業と出荷が夫婦の楽しみの一つとなっています。

品種は、このあたりでは「柘井ドーフィン」とよばれ、作り方は「一文字」方法が合っているそうです。

2年前に苗木40本を植えて今では背丈ほどに成長しました。大きなイチジクが重そうにぶら下がっているのが何とも言えません。今では自慢の果樹です。

出荷して皆さんに美味しく食べてもらうことが最高の喜びであり、夫婦で頑張ってきた甲斐があります。

これからも美味しく立て派なイチジクづくりに頑張ります。また、余裕ができれば野菜づくりしたいと考えています。ちょっと欲張りかなあ。（川岸祥郎）

おでんに挑戦



先日10月6日7日に行われた高向神社の秋祭りで、地域の女性たちが協力して賄いの「おでん」を200食ほど作りました。

「もう少しダシを利かせた方が」、「醤油を足そう」など、参加者からは様々な意見が飛び交い賑やかなこと。予定時間に間に合うかと心配し、卵の殻が綺麗にむけずに焦ることも。

みんなドキドキはらはらしながら炊きあげました。接待の場所、大根、こんにゃく、ごぼうなど6種類の具を入れて皆さんに熱いのを手渡すと、これまでは折詰のお弁当でしたから、暖かい食事が出ると思ってもよらなかったよう非常に驚かれました。

気になる味ですが、皆さんから、「温かく、とてもおいしかった」、「来年もまた頼んだで」とご好評いただきました。その声にホッと胸をなでおろし、心の中で「やったー」。

今回、直径60センチの大鍋2個を購入し、他に寄付や借用などでなんとか調理ができました。準備など大変でしたが、近所の女性たちの貴重な交流の機会になりました。（三浦佐江子）